

5年生道徳授業 「母とながめた一番星」(生命の尊さ)

1.ねらい

自分の生命が多くの支えやつながりの中で守られている尊い生命であることを理解し、自分だけでなくすべての生命を大切にしていこうとする心情を育てる。

2.あらすじ

学校で仲間外れにされ、帰ってすぐに家を飛び出した恵子は、追いかけてきた母から川の土手で空を見ながら、自分がどんなに愛されているかの話聞き、勇気をもった。

3.授業の様子

【1組】

授業の最後にお家の方からいただいた手紙を読みました。自分がこんなに家族みんなから愛されていることに感動し、涙を流している子もいました。



【子どもたちの感想】

- ・お母さんがこんな大変な思いをして自分を産んでくれたので、自分の命をもっと大切にしたいと思った。
- ・東日本大震災の時でも力強く産んで育ててくれてありがとう。これからがんばって生きていきます。
- ・自分の存在は、家族全員の宝物だということがわかった。だから元気に長生きしようと思った。
- ・お母さんに愛されていることは分かっていたけれど、こんなに愛してくれているとは知らなかった。今日帰ったらお母さんに「ありがとう」と言いたい。
- ・家族は、自分のことをこんなに大切に思ってくれているのだから、これからも自信をもっていろいろなことに挑戦したい。

【2組】

手紙を読んだ後、その感動が冷めないうちに感想を書きました。手紙を何度も読み返しながら自分の心と向き合って文章にしていた子どもたちです。



【子どもたちの感想】

- ・家族みんながこんなにぼくがうまれてくるのを待ち望んでいたことを初めて知った。いつも大事にされていると思っていたけれど、今日はその時の何百倍もそう思った。
- ・お母さんの「こんな子に育ててほしい」という思いが伝わってきた。いろんな人のいろんな気持ちが伝わってきて、泣きそうになった。
- ・お母さんが、病気にかかってまでぼくを産んでくれて、ぼくは精一杯生きようと思った。
- ・お母さんがそこまで大切に思ってくれていたなんて、知らなかった。お母さん、産んでくれてありがとう。
- ・ぼくもバトンを受けたので、精一杯生きようと思った。

4.お家の方へ

子どもたちへのお手紙のご協力ありがとうございました。「命はたった一つで何よりも大切なもの」とわかっている子どもたちですが、辛いことがあると自暴自棄になり、命を軽視したような感情を抱くことがあります。授業の終わりにお家の方が書いて下さった手紙を読むことで、自分も主人公と同じように、家族みんなの希望を背負って祝福されて生まれてきたことを実感することができました。この手紙は、これから思春期を迎える子どもたちの大きな宝物になると思います。